

横浜, 12月.

- 14) 吉田 博, 黒澤秀夫, 正田 暢, 木杉玲子, 小池 優, 伊藤公美恵, 多田紀夫. アディポネクチンは性別と体重の影響とともに加齢に従って増加する. 第51回日本老年医学会関東甲信越地方会. 東京, 3月.

#### IV. 著 書

- 1) 多田紀夫. 7. 内分泌・代謝系と検査異常 B. 検査異常 6. 高脂血症, 7. 低脂血症. 付記. HDL コレステロール (HDL-C) の動向. チャート内科診断学. 富野康日己編. 東京: 中外医学社, 2009. p.402-12.
- 2) 多田紀夫. 5章: 脂質異常に対する薬剤治療とそのエビデンス フィブラート. 寺本民生編. コレステロール: 基礎から臨床へ. 東京: ライフサイエンス社, 2009. p.208-13.
- 3) 細谷 工, 松島雅人. 2章: 各論 足病変とフットケアのエビデンス. 坂根直樹 (京都医療センター) 編著. エビデンスを活かす糖尿病療養指導. 東京: 中外医学社, 2009. p.100-6.

#### V. その他

- 1) Tada N, Yoshida H, Yanai H, Ito K, Noriko S, Tomono Y, Koikeda T. Effects of astaxanthin administration on serum lipids in hyperlipidemic man: a randomized, placebo-controlled study. In: Lewis BS, Widimsky P, Flugelman MY, Halon D eds. New Approaches in Coronary Artery Disease: Proceedings of the 8th International Congress on Coronary Artery Disease. Bologna: Medimond. 2009, p.543-6.

### 精 神 医 学 講 座

教授: 中山 和彦	精神薬理学, てんかん学
教授: 伊藤 洋	精神生理学, 睡眠学
教授: 中村 敬	精神病理学, 森田療法
准教授: 宮田 久嗣	精神薬理学, 薬物依存
准教授: 須江 洋成 (兼任)	臨床脳波学, てんかん学
准教授: 忽滑谷和孝	総合病院精神医学
講師: 山寺 亘	精神生理学, 睡眠学
講師: 小曾根基裕	精神生理学, 睡眠学
講師: 小野 和哉	精神病理学, 児童精神医学
講師: 石黒 大輔	精神病理学, 精神医学
講師: 橋爪 敏彦	老年精神医学, 総合病院精神医学
講師: 大淵 敬太	精神生理学, 睡眠学
講師: 塩路理恵子	森田療法, 精神病理学
講師: 三宮 正久	精神薬理学, 精神医学
講師: 館野 歩	森田療法, 比較精神療法

#### 教育・研究概要

##### I. 精神病理・精神療法・児童精神医学研究会

構造的な精神療法, 精神病理学的研究, 児童精神医学研究を行った。児童精神医学研究では, 外来における注意欠陥多動性障害や広汎性発達障害の対応のシステム構築の研究を行った。また, 発達障害に併存する急性精神病の病理学的研究を行い, 対象患者の WISC III などの知的機能の検査において経年的な変化を起こすグループを見出した。精神療法研究では, 自閉症患者における日記指導の治療効果の研究を行った。社会精神医学研究では, ホワイトカラーの就労者における「うつ」の要因についての研究を行い, うつと関連するのは職場のストレス自体より, 患者の性格, 自己評価, 会社外でのストレスなどであることを明らかにした。

##### II. 森田療法研究会

前年に策定した「外来森田療法のガイドライン」の英語版が出版され, 第7回国際森田療法学会において紹介された。慢性抑うつ患者の性格学的研究が完了し, Revised NEO Personality Inventory の「開放性」と「調和性」尺度の低値が慢性抑うつ患者に特徴的であることが示された。その他, パニック障害と全般性不安障害に関する性格学および共存障害の研究, 強迫性障害のサブタイプに関する研究, 不安障害・気分障害の経過中に生じる「寝込み反応」

についての精神病理学的研究、入院森田療法におけるうつ病の回復要因についての研究を継続した。

### Ⅲ. 薬理生化学研究会

基礎研究では、1) 脳内透析法およびラジオイムノアッセイ法による新規向精神薬の脳内作用機序に関する研究、2) 科学技術振興機構 ERATO および専修大学大学院文学研究科心理学部門との共同研究により、薬物依存の形成、維持、再発における脳内神経回路の役割、および、薬物依存の新規治療薬開発に関する研究を行った。臨床研究では、1) 向精神薬の臨床的有用性および有害事象に関する研究、2) 放射線医学総合研究所との共同研究で機能的脳MRIを用いた目的指向性行動における内側前頭前野の役割の研究、3) DNA 研との共同研究で神経変性疾患における神経栄養因子遺伝子多型の研究、4) アカシジアの関連遺伝子に関する研究を行った。

### Ⅳ. 精神生理学研究会

1) Cyclic Alternating pattern (CAP) を指標とした抑肝酸やクエチアピンの睡眠内容に与える影響に関する研究、2) 睡眠医療における医療機関連携のガイドラインの有効性検証に関する研究、3) 慢性不眠症に対する集団認知行動療法の有効性に関する実証的研究、4) うつ病再発予防教室施行患者における残遺不眠に対する集団認知行動療法の有効性に関する検討、5) 精神疾患を有する入院及び外来患者における上部消化器症状に関する調査、6) 経鼻的持続陽圧呼吸管理下の閉塞型睡眠時無呼吸症候群における精神科的治療の必要性に関する研究などを継続あるいは新規着手した。

### Ⅴ. 老年精神医学研究会

認知症が疑われる患者に対してVSRADとvbSEEによって解析を加えた頭部MRI、SPECT検査を行い、さらに、神経心理学的検査を施行して、認知症の重症度、疾患分類などと画像検査との関連を検討した。また、外科との共同研究として「癌患者における精神障害」を行い、乳癌患者を対象として精神障害の有無、精神症状の程度、背景因子との関連、身体疾患との関連などを調査した。

### Ⅵ. 総合病院精神医学研究会

うつ病の再発予防教育では、ビデオ教材をスライド化し、より柔軟に患者のニーズに対応することをめざした。効果判定の心理検査では、認知・行動・感情の3側面と総合的なパーソナリティの測定に加

え、うつ病の寛解期における睡眠状態を把握する目的で、新たに睡眠評価尺度も取り入れた。また、最近増加しているパーソナリティの未成熟性や偏りが存在する症例や双極性うつ病にも対応しうるプログラムを検討した。次に、末期患者に対する終末期医療（緩和ケア）では、癌センター東病院との数年来の共同研究により、がん患者、その家族、および遺族の心理的課題に関する研究を行った。さらに、入院患者やスタッフから要請を受けて、臨床心理士を中心とした精神科スタッフがメンタルサポートを開始した。

### Ⅶ. 臨床脳波学研究会

てんかんに合併する精神障害の治療コンセンサスを検討するため、てんかん診療に長年携わる精神科医を対象にしたアンケート調査を実施し、てんかんによる精神障害の薬物療法アルゴリズムの提案を行った。特に、薬物療法で最も問題となるてんかん発作閾値の低下に関して、向精神薬のH1受容体阻害作用との関連から検討を行った。そのほか、てんかん女性患者に関連する問題の生化学的側面からの検討や、てんかん患者にみられる不安や引きこもりに関する精神病理学的研究を行った。

### Ⅷ. 臨床心理学研究会

心理療法の技法の向上を図るために症例検討を継続した。また、認知行動療法、森田療法、緩和ケア、サイコオンコロジーなどの学習を行った。心理テストについては、発達障害、高次脳機能障害を中心に研究をすすめた。慈恵心理臨床の集い（研究会）では、栗原幸江先生を講師として招聘し、緩和ケアについて学習を深めた。加えて、心理研修生を受け入れ、心理学的教育に積極的に取り組んだ。

#### 「点検・評価」

2009年度においても、9部門の研究会からなる研究活動を行い、基礎的研究から臨床研究まで幅広い方法論で研究活動を行った。このことは、脳科学から精神療法まで幅広い知識が必要とされる精神科治療を実践するに際して望ましい研究体勢にあるといえる。本年度は、これに加えて、児童期から老年期まで幅広い疾患に対して、それぞれの研究会が専門外来を開設したり、異なった研究班が共同して研究活動や治療体制を設けるようになった。このことは、医学科における研究と臨床のあり方として望ましく、また、教育の観点からも良好な効果が期待される。研究活動においては、従来通り、それぞれの

研究会が積極的に研究費を獲得して研究を行い、活発な学会発表がなされている。しかし、原著論文、特に、学術的に権威のある国際誌などへの投稿は多いとはいえ、今後、より厳密な研究計画に基づいた独創的な研究が求められる。さらに、各研究部門での独立した研究テーマにとどまらず、教室全体として大きな研究目標を設け、基礎と臨床のジョイントした研究を計画する必要があると感じている。

## 研究業績

### I. 原著論文

- 1) 中山和彦. 新規抗うつ薬の作用・検証 ドパミン神経伝達に注目して. 日神精薬理誌 2009; 29(3): 99-108.
- 2) 中山和彦. 【新規抗うつ薬 mirtazapine とは】 Mirtazapine のうつ病治療における期待. 臨精薬理 2009; 12(8): 1767-77.
- 3) 中山和彦. 【向精神薬のジェネリック 現状と薬価】抗うつ薬における後発医薬品の市場調査 特に満足度について. 精神科 2009; 15(3): 258-66.
- 4) 中山和彦. 【向精神薬のジェネリック 現状と薬価】抗うつ薬における後発医薬品の使用状況とその問題点. 精神科 2009; 15(3): 267-74.
- 5) 中山和彦. 精神科薬物療法の最適化 発症から自己治癒過程を踏まえて. 慈恵医大誌 2010; 125(1): 1-17.
- 6) 中山和彦, 中村晃士. 【治療が終わること, 治療を終わらせること】治療が終わるとき パニック障害を軸にして. 精神科治療 2009; 24(12): 1461-5.
- 7) 宮田久嗣. 【統合失調症治療の新しい可能性 新規抗精神病薬プロナセリンの臨床】薬理作用からみた新規抗精神病薬の臨床特性 特に意欲と動機づけの保護作用の観点から. 脳 21 2009; 12(2): 222-7.
- 8) 忽滑谷和孝, 中山和彦. 新規抗うつ薬の作用・検証. 心療内科 2009; 13(4): 306-13.
- 9) 忽滑谷和孝, 中山和彦. 【向精神薬のジェネリック 現状と薬価】抗不安薬における後発医薬品の使用状況とその問題点. 精神科 2009; 15(3): 287-93.
- 10) 忽滑谷和孝, 落合結介, 真鍋貴子, 伊藤達彦, 三宮正久, 中山和彦. 【精神科と他科・他職種との連携】コンサルテーション・リエゾン精神医学 総合病院における精神科コンサルテーション・リエゾン活動の実態調査 高齢者に対する連携医療の問題点について. 臨精医 2009; 38(9): 1145-51.
- 11) 忽滑谷和孝, 真鍋貴子, 伊藤達彦, 三宮正久, 中山和彦. 緩和ケア活動における向精神薬の使用状況とその効果に関する研究. 精神科 2009; 15(2): 199-208.
- 12) 山寺 亘. プロナセリンに置換することで、過鎮

静を伴わない抗幻覚妄想作用が得られた慢性統合失調症の1例. 新薬と臨 2010; 59(2): 300-5.

- 13) 小野和哉, 中山和彦. 【人格障害と抑うつ】女性の境界パーソナリティ障害 BPD における性差の視点から. Depress Front 2009; 7(2): 14-8.
- 14) 三宮正久, 中山和彦. 困難な症例から学ぶ 手首自傷を繰り返す初発統合失調症の一症例. Schizophrenia Front 2009; 10(3): 221-5.
- 15) Tsuno N, Homma A. Ageing in Asia - The Japan experience. Ageing Int 2009; 34(1-2): 1-14.
- 16) Tsuno N, Homma A. What is the association between depression and Alzheimer's disease? Expert Rev Neurother 2009; 9(11): 1667-76.
- 17) 真鍋貴子, 忽滑谷和孝, 川室 優. プロナセリンの併用により強固な幻聴が軽減した慢性統合失調症の1例. 新薬と臨 2009; 58(7): 1292-4.
- 18) Sato M, Yamadera W, Matsushima M, Itoh H, Nakayama K. Clinical efficacy of individual cognitive behavior therapy for psychophysiological insomnia in 20 outpatients. Psychiat Clin. Neurosci 2010; 64(2): 187-95. Epub 2010 Feb 1.
- 19) 品川俊一郎, 中山和彦. 私のカルテから 塩酸ドネペジルによる精神症状・行動障害の悪化が疑われた前頭側頭型認知症の1例. 精神医 2009; 51(7): 689-91.
- 20) Nagata T, Shinagawa S, Ochiai Y, Kada H, Kasahara H, Nukariya K, Nakayama k. Relationship of frontal lobe dysfunction and aberrant motor behaviors in patients with Alzheimer's disease. Int Psychogeriatr 2010; 22(3): 463-9. Epub 2009 Dec 15.
- 21) Nagata T, Ishii K, Ito T, Aoki K, Ehara Y, Kada H, Furukawa H, Tsumura M, Shinagawa S, Kasahara H, Nakayama K. Correlation between a reduction in Frontal Assessment Battery scores and delusional thoughts in patients with Alzheimer's disease. Psychiatry Clin Neurosci 2009; 63(4): 449-54.
- 22) 永田智行, 品川俊一郎, 笠原洋勇, 中山和彦. 精神医学のフロンティアアルツハイマー病患者における Frontal Assessment Battery (FAB) スコア低下と妄想的観念の関連性. 精神誌 2010; 112(3): 199-205.
- 23) Okamura M, Akizuki N, Nakano T, Shimizu K, Ito T, Akechi T, Uchitomi Y. Clinical experience of the use of a pharmacological treatment algorithm for major depressive disorder in patients with advanced cancer. Psychooncology 2008; 17(2): 154-60.

### II. 総 説

- 1) 中山和彦. 激変する職場環境 普遍的課題は何か. 産業精保健 2009; 17(4): 215-21.
- 2) 中山和彦. 高木兼寛と森田正馬 (その2) イギリス

医学の源流を、東京慈恵会成立過程から探る 不治の病「脚気」が導き出した不安の時代。慈恵医大誌 2009；124(6)：305-14.

- 3) 中山和彦. 【ミルタザピン 基礎と臨床】ミルタザピンの臨床. 精神 2010；16(3)：213-22.
- 4) 宮田久嗣. 抗精神病薬と産業精神医学. 産業カウンセリング 2009；258(1)：28-9.
- 5) 宮田久嗣. 抗うつ薬と産業精神医学. 産業カウンセリング 2009；259(2)：22-3.
- 6) 忽滑谷和孝, 中山和彦. 【向精神薬のジェネリック現状と薬価】抗不安薬における後発医薬品の使用状況とその問題点. 精神 2009；15(3)：287-93.
- 7) 忽滑谷和孝, 笠原洋勇. 【老年期にみられる症候から診断への手順】老年期の妄想. 老年精医誌 2009；20(11)：1216-23.
- 8) 塩路理恵子. 【精神療法のエッセンスを診療に生かす】森田療法を診療に生かす. 臨精医 2009；39(1)：35-41.
- 9) 伊藤達彦, 内富庸介. 【肺癌 基礎・臨床研究のアップデート】臨床研究 治療 緩和医療 肺癌患者に対する精神腫瘍面のケア. 日臨 2008；66(増刊6 肺癌)：685-90.
- 10) 川上正憲, 中村 敬. 【入院の診立て・判断】入院の診立て・判断 強迫性障害の場合. 精神科治療 2009；24(4)：455-60.

### Ⅲ. 学会発表

- 1) 中山和彦. 精神科薬物療法の基礎知識と最近の知見. 第50回中国・四国精神神経学会. 松江, 11月.
- 2) 中山和彦. 接近する新規抗うつ薬と非定型抗精神病薬の臨床的意義. 第29回日本社会精神医学会. 松江, 2月.
- 3) Miyata H, Itasaka M(Erato), Kimura N, Nakayama K. Decreases in brain reward function reflect nicotine - and methamphetamine-withdrawal aversion in rats. 2nd Annual International Drug Abuse Research Society & International Society for Neurochemistry Satellite Meeting. Seoul, Aug.
- 4) 宮田久嗣. ニコチン依存とその他の物質依存の臨床面での共通点と相違点. 第44回日本アルコール・薬物医学会・第21回日本アルコール精神医学会・第12回ニコチン・薬物依存研究フォーラム平成21年度合同学術総会. 横浜, 9月.
- 5) 忽滑谷和孝, 渡邊友弥, 永田智行, 青木 亮, 落合結介, 原田大輔, 青木公義, 品川俊一郎, 真鍋貴子, 伊藤達彦, 角 徳文, 穎原禎人, 中山和彦. 認知症専門外来に受診した認知症の服薬管理に影響を与える因子に関して. 第106回日本精神神経学会学術総会. 広島, 5月.
- 6) 忽滑谷和孝, 森田満子, 森 美加, 高橋由美子, 永田智行, 品川俊一郎, 真鍋貴子, 伊藤達彦, 角徳文, 中山和彦. アルツハイマー型認知症の周辺症状に影響を与える因子について NPIを通して. 第22回日本総合病院精神医学会総会. 大阪, 11月.
- 7) 山寺 亘. 慢性不眠症に対する集団認知行動療法の試み. 第6回アジア睡眠学会・日本睡眠学会第34回定期学術集会・第16回日本時間生物学会学術大会合同大会. 大阪, 10月.
- 8) 山寺 亘. 睡眠障害の非薬物療法：睡眠の認知行動療法を中心に. 日本産業精神保健学会・日本ストレス学会共催シンポジウム. 東京, 3月.
- 9) 塩路理恵子, 増茂尚志, 中村 敬, 中山和彦. 中間的・移行的な状態としての「寝込み」について. 日本精神病理・精神療法学会第32回大会. 盛岡, 9月. [臨精病理 2010；31(1)：63-4]
- 10) 伊藤達彦, 秋月伸哉, 清水 研, 石橋有希, 真鍋貴子, 青木公義, 津村麻紀, 山寺 亘, 忽滑谷和孝, 中山和彦, 内富庸介. 外来化学療法を施行するがん患者に対する“適応障害・うつ病スクリーニングプログラム”. 第22回日本総合病院精神医学会総会. 大阪, 9月.
- 11) 真鍋貴子, 杉田ゆみ子, 津村麻紀, 古川はるこ, 森田満子, 伊藤達彦, 忽滑谷和孝. 双極性障害の抑うつ状態にLamotrigineが有効であった一例. 第7回日本うつ病学会総会. 金沢, 6月.
- 12) 青木公義, 穎原禎人, 原田大輔, 落合結介, 青木 亮, 渡邊友弥, 杉田ゆみ子, 山尾あゆみ, 古川はるこ, 津村麻紀, 森田満子, 真鍋貴子, 小曽根基裕, 忽滑谷和孝, 中山和彦. 寛解期うつ病に対する不眠治療の介入：うつ病再発予防プログラム参加者の睡眠障害を通して. 第7回日本うつ病学会総会. 金沢, 6月.
- 13) 川上正憲, 中村 敬, 中山和彦. 強迫性障害に対するAripiprazoleの有効性の検討：精神病理学的視点からの考察. 第105回日本精神神経学会学術総会. 神戸, 8月.
- 14) 永田智行, 品川俊一郎, 落合結介, 穎原禎人, 加田博秀, 津村麻紀, 古川はるこ, 笠原洋勇, 忽滑谷和孝, 中山和彦. アルツハイマー病患者における前頭葉機能障害と行動障害の関連性. 第15回千葉総合病院精神科研究会. 千葉, 4月.
- 15) 古川はるこ, 津村麻紀, 森田満子, 杉田ゆみ子, 山尾あゆみ, 渡邊友弥, 青木 亮, 落合結介, 原田大輔, 青木公義, 真鍋貴子, 伊藤達彦, 穎原禎人, 忽滑谷和孝, 中山和彦. うつ病再発予防プログラムの治療効果に関する研究：TCIを用いた性格傾向の検討. 第22回日本総合病院精神医学会総会. 大阪, 11月.
- 16) 山尾あゆみ, 杉田ゆみ子, 渡邊友弥, 小堀聡史, 青木 亮, 落合結介, 原田大輔, 青木公義, 穎原禎人,



津村麻紀, 古川はるこ, 忽滑谷和孝. 自殺企図の背景に発達障害が疑われた一例. 第41回成医会柏支部例会. 柏, 12月.

- 17) 杉田ゆみ子, 森田満子, 斉藤健一郎, 山尾あゆみ, 吉岡英里, 真鍋貴子, 伊藤達彦, 忽滑谷和孝, 笠原洋勇, 中山和彦. うつ病再発予防クラスを双極性障害に施行して効果のあった症例. 第105回日本精神神経学会学術総会. 神戸, 8月.
- 18) 小林伸行, 中山和彦, 近藤一博. ヒトヘルペスウイルス (HHV)-6 潜伏感染特異的タンパク (SITH-1) と気分障害発症との関連. 第105回日本精神神経学会学術総会. 神戸, 8月.
- 19) 三宮正久, 宮田久詞, 石井一裕, 昼間洋平, 森田道明, 中山和彦. Aripiprazole の不安・ストレス関連障害に対する有効性の検討: 予備的研究. 第19回日本臨床精神神経薬理学会・第39回日本神経精神薬理学会合同年会. 京都, 11月.
- 20) 渡邊友弥, 古川はるこ, 津村麻紀, 山尾あゆみ, 杉田ゆみ子, 青木 亮, 落合結灰, 原田大輔, 青木公義, 頼原禎人, 忽滑谷和孝, 中山和彦. 無床総合病院精神科におけるうつ病治療の現状: CGIを用いた1年後の治療成績. 第7回日本うつ病学会総会. 金沢, 6月.

#### IV. 著 書

- 1) 中山和彦. 第3章 精神医学におけるスポーツの役割 9. 月経関連症候群とスポーツ. 日本スポーツ精神医学会編. スポーツ精神医学. 東京: 診断と治療社, 2009. p.98-100.
- 2) 忽滑谷和孝. 第4章 管理・治療(総論) うつ病の管理・治療. 上島国利編. 新しい診断と治療のABC9: 精神1: 気分障害: 躁うつ病(最新医学別冊). 改訂第2版. 大阪: 最新医学社, 2009. p.94-105.
- 3) 山寺 亘. 第4章 産業メンタルヘルス9. 産業衛生における睡眠医療-日中の問題眠気をもたらす社会的影響. 日本産業衛生学会関東産業医部会編. 産業医ガイド: 基本管理業務からメンタルヘルスまで. 東京: 日本医事新報社, 2010. p.309-17.
- 4) 落合結介, 笠原洋勇. A. 老年期うつ病総論-疾患理解のためのオリエンテーション 1. 疾患概念総論 I-疫学, 危険因子, 病因論 Topics1. 高齢者のストレス. 三村 将, 仲秋秀太郎, 古茶大樹編. 老年期うつ病ハンドブック. 東京: 診断と治療社, 2009. p.18-20.
- 5) ナンシー・マックウィリアムズ (ニュージャージー州立ラトガー大学) 著, 狩野力八郎<sup>1)</sup>監訳, 妙木浩之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京国際大学), 津村麻紀他訳. 精神分析的な心理療法: 実践家のための手引き. 東京: 金剛出版, 2009.

#### V. その他

- 1) 中山和彦. ACT に生きる EE 研究の本領. 最新精神医 2009; 13(6): 531-2.
- 2) 中山和彦. 森田療法がめざす自己治癒. 外来精神医療. 2009; 9(1): 4-5.
- 3) 真鍋貴子, 忽滑谷和孝. 【うつ病のサイコエデュケーション】うつ病再発予防のためのサイコエデュケーション. Bulletin of Depression and Anxiety Disorders 2009; 7(2): 6-8.
- 4) 真鍋貴子, 忽滑谷和孝, 川室 優. プロナンセリンの併用により強固な幻聴が軽減した慢性統合失調症の1例. 新薬と臨 2009; 58(7): 1292-4.
- 5) 森 美加. 書評 ジェフリー・E・ヤング著「パーソナリティ障害の認知療法」. 精神療法 2010; 36(1): 131-2.